

たからっ子文芸だより



ことばの森へ

令和5年(2023年)

第8号 11月1日発行

宝塚市教育委員会

ことばの祭典2023小学生 WEB 俳句の部 優秀賞



宝塚市で行っている「ことばの祭典2023小学生 WEB 俳句の部」の審査が終わりました！第7号で最優秀句を紹介しました。今回は、優秀句を紹介します。応募 361 句から4句を選びました。



応募の整理番号順に紹介します。順位ではありません。

あつい本あつくと読む気が失せる夏

山口 菜乃葉さん（仁川小学校 6年）

「あつい」には「厚い」と「暑い」の漢字を充てます。耐えられないほどだった今年の暑さが、「あつい」のくりかえしで強調されているうちに、読書感想文の宿題に悩まされた全国の小学生にきっと共感される一句です。



ハロウィンぬいぐるみにきかえよう

東 明奈さん（西谷小学校 5年）

お面をかぶるとかではなくて、全身着ぐるみの猫になりきろうとしている。腕や足を着ぐるみに通していく姿が目には浮かぶようです。ひらがなで書いたことで、とても素朴な気持ちで楽しもうとしていることが伝わります。



裏につづく→

ちからもちムキムキアリ(ばかぢから)

安井 佑太弥さん (光明小学校 6年)

画家の熊谷守一さんは一日中アリの動きを観察していました。

「ちからもち」「ばかぢから」の繰り返しは無駄なように思えますが、

熊谷さんのようにじっくり観察していたからうまれた表現。

全体がリズムカルで楽しい。



夏祭り浴衣を着るとべっぴんさん

三上 莉乃さん (売布小学校 6年)



べっぴんさんって、イマドキの若い人たちは使うかな。もしかしたら、おじいちゃん、おばあちゃんにほめられたのかもしれない。いずれにしても浴衣を着るという特別な日を胸躍らせて楽しんでいるのが目に浮かびます。

いかがでしたか。たからっ子の言葉の力はなかなかすばらしいでしょう。

11月25日(土)9時半から宝塚市立西公民館ホールで「句会ライブ」があります。俳人・坪内稔典さんをゲストに、小学校1年生から中学校3年生までが俳句で遊びます。

問い合わせ、申し込みは宝塚市教育委員会学校教育課(電話0797-77-2028)までどうぞ。



次号は昨年に実施した「ことばの祭典」中学生WEB俳句の部で特別賞を受賞した作品を紹介します！